



翌年の収量品質は、  
着葉量の十分な確保と  
丁寧な整枝作業がポイント

# 茶



農業経営支援課  
福手 裕三

## 《秋整枝》

10月の作業は秋整枝が中心となってきます。摘採面を整え、翌年の一番茶に古葉や木茎が混入しないようにしましょう。秋整枝は、摘採に次いで一番茶の生育・収量に大きな影響を及ぼします。平均気温18〜19℃以下になる10月上旬から行ってください。冬期に寒害を受けやすい地域や樹勢が弱い茶園については、葉層の確保を心掛けてください。

※平成30年10月12日 管内平均気温19・1℃  
JAおおいがわECセンターデータより  
秋整枝と春整枝では、春整枝をすると摘採時期が遅くなり、新芽のバラツキが顕著になります。春整枝は一番茶の品質低下に及ぼす影響が懸念されますが、寒害や凍霜害が生じた場合の減収や品質低下と比較すると被害程度が低いので、気象災害の頻発茶園では春整

枝を検討してもいいかもしれません。

## 【深刈り（スリ）】

- 最終芽（二番茶芽）の2〜3枚残した位置で葉層8cm以上確保
- 最終摘採面（二番茶後整せん枝位置）より5〜6cm上で整枝
- 日差し強い日は避け、機械の刃回転は早く、進む速度はゆっくり丁寧に実施しましょう！

## 《病害虫防除》

秋整枝が終わると、病害虫防除も終盤を迎えます。10月から年末にかけて防除対象となる病害虫は、ハマキ類、カンザワハダニ、ナガチャコガネ、チャトゲコナジラミなどです。茶園によって発生度合いに差があるので、茶園をよく観察して必要に応じて防除を行ってください。また、隣接園で秋冬番茶を摘採し

ている場合は、防除を自粛するなどドリフトの防止を心掛けてください。なお、防除規制がある地区においては、各地域の指導に従って防除を行ってください。

## 赤焼病（10月中旬〜下旬）

秋整枝や台風などの強風時にできた傷口から感染して発病します。幼木園など風の影響を受けやすい茶園などは、特に注意してください。

コサイド3000 1000倍

ドイツボルドーA 500倍 など

チャトゲコナジラミ（秋整枝後の10月中旬〜11月上旬）

近年管内茶園でも常発しています。ス入病が発生しているような多発園では、特に注意が必要です。マシン油で防除することで、ス入病の軽減が可能です。

マシン油 50〜100倍